

Title	彙報
Author(s)	
Citation	懷德. 1975, 45, p. 50-51
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/90532
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

彙報

(懷德堂記念會)

五〇

○田中裕理事 昭和四十九年三月三十一日退任

○昭和四十九年四月一日 大阪大學文學部長梅溪昇氏理事就任

○評議員寺尾威夫氏 昭和四十九年五月二十五日逝去。謹んで哀悼の意を表します。

○秋季講座 昭和四十九年十月二十一日(月)より二十六日(土)まで、本會及び大阪大學文學部主催、朝日新聞社後援で、大阪大學松下會館四階講堂に於て、毎日午後六時半より八時まで、第四十九回懷德堂講座開催。聴講者延三百七十七人。

演題と講師

近松の時代

大阪市立大學教授 森

修氏

——傳記を中心として——

古澤瑠璃から近松へ

徳島文理大學教授 角田

一郎氏

近松當時の人形たち

大阪大學教授 信多

純一氏

近松の世話物

大阪教育大學教授 横山

正氏

——晩年の作品を中心として——

近松の時代物

帝塚山學院大學教授 向井

芳樹氏

——國性爺合戦を中心として——

近松物と現代

羽衣學園短大教授 吉永

孝雄氏

○記念祭典 昭和四十九年十一月十五日(金) 東區北濱三丁目本會(適塾内)に於て、午後一時四十分より大阪大學教授田中健二氏の「學問という言葉の意味」と題する記念講演後、二時五十分より祭典執行、三時半終了。(祭典が講演後になったのは、理事長の都合による)

○講師阪倉篤太郎氏 昭和五十年三月八日逝去。先生は長年國文を講義された。謹んで哀悼の意を表します。

○幹事岡野康平氏 昭和五十年三月三十一日退任。

氏は大正十一年會計幹事として就任以來、五十四年間の長きに亘つて、本會の事業に對し、大變盡力された。このたびの戰爭戦後にかけて、本會の事業である講義、講演も不能な苦難時代を、東奔西走、非常な努力によつて切抜け、殆ど戦前と變らぬほどに立直ることができた。その功績は實に大である。今日氏の退任は、本會にとつて、まことに痛手である。

○時野谷勝事業運営委員 昭和五十年三月三十一日退任。

○梅溪昇氏 昭和五十年四月一日事業運営委員就任。

○春季講座 昭和五十年五月十九日(月)より二十四日(土)まで、本會及び大阪大學文學部主催、朝日新聞社後援で、大阪大學松下會館四階講堂に於て、毎日午後六時半より八時まで、第五十回懷德堂講座開催。聴講者延四百四十七人。

演題と講師

韻書と反切の系譜

大阪外大教授 辻本 春彦氏

中國の思想革命

阪大名譽教授 木村 英一氏

袁隨園の哲學

大阪市大教授 本田 濟氏

聖徳太子と梁の武帝 京都藝大 梅原 猛氏

——隠された十字架以後——

中國古代の農事詩 京大教授 清水 茂氏

多神教の世界観 阪大名譽教授 森 三樹三郎氏

——中國と日本——

懷徳堂記念扇子目錄

(昭和四十一年以降)

昭和四十九年十月 中井竹山先生墨迹

(誰分禹疇目 小草得佳名 歲々水霜底 開花應夏正)

同 五十年十月 中井履軒先生墨迹

(問餘何意栖碧山 笑而不答心自閑 桃花流水杳然去 別有

天地非人間)

(堂友會記事)

懷得四十四號恒祭に發行

十一月十日、近江シリーズとして湖北の己高山文化圏である雞

足寺石道寺及渡岸寺の觀音様などの諸彫像を滋賀女子短大教

授宇野茂樹先生の指導で見學した。就中渡岸寺の觀音様や右

道寺の觀音様又己高閣觀音像や十二神將立像など重文諸像は

印象深く觀賞した。

十一月十五日、記念會恒祭と適塾で行われ堂友會員參列した。

五月二十四日 岡野康平氏より金貳萬圓の寄附を受く。

六月一日 圓城寺の見學會を開く、參加者四十數名會員越崎氏

處用の都合で取手市より参加された。

七月十二、三日 夏季見學會を開き、宇野茂樹先生指導により

常樂寺、長壽寺、油日神社などを見學した。

先づ十二日草津驛前からバスで常樂寺に到着、重文の廿八

部衆や國寶の本堂及瓦銘のある三重塔を見、且つ塔内部の眞

言八祖の板繪など見て休憩、次に長壽寺を訪れて本堂や白

山神社や阿彌陀堂の堂々たる阿彌陀如來坐像藤原重文などを

見學して寺社の六角堂を車中に見て甲賀の忍者屋敷を見た。

しかし幾分噂程ではないと思つた。それから油日神社に到

着、少憩の後神社に參拜、神社の由緒や板額などの説明をき

き、後瀬古宮司より田作福大夫神の面やすずい子人形などの

面白い話をきき、夏夜を木の香匂ふ部屋で一夜と明かしてか

ら、十三日には櫛野寺で大悲閣内の彫像につき、その技法な

ど個々につき説明をきく。終つて大鳥神社で建築美を見學し

てから栗東・和中散本舖に至り、その江戸時代の製薬の工程

などを見學して、一應夏季見學會を終つて解散した。八月十

八日より六日間夏季論語講讀會を茶隴山道場で開催、講師は

大阪大學名譽教授木村英一先生である。

新入會員

吉田睦子、作川昌子、堀 勲、根本よしゑ、小島 清、末

中哲夫、田中利明、中村千恵子、中山光春、武田秀夫、刀稱

靜江諸氏